

平成30年度  
広島県瀬戸内高等学校推薦入学試験問題

国語

(50 分)

..... 注 意 事 項 .....

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いて見ないこと。
2. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
3. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不明な箇所があれば申し出ること。
4. 問題・解答用紙の指定欄の太枠内に、受験番号を忘れずに記入すること。
5. 問題・答案は試験終了後、監督員の指示によって回収するので、終了の合図までそのまま静かに着席していること。
6. 余白は自由に使って良い。

受験  
番号

|  |
|--|
|  |
|--|

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人は誰でも失敗するとへこむし、元気がなくなります。大きな失敗であればあるほど、落胆は大きいものです。

「あんなことしなければよかった」

「なかったことにしたい」

そんなことを一度も思わなかった人はいないでしょう。日本語には「後悔」という言葉もあります。あらためて言うまでもないことですが、「後で悔いる」という意味です。

この後悔くらい無駄なものはありません。こんなものは人生で有害とも言えます。

失敗を「反省」するのは大切です。なぜなら反省は次に生かせるからです。だから失敗は大いに反省するべきだと思います。反省のない人間に成功はありません。

《 A 》後悔には意味がありません。

後悔したい気持ちはわかります。つい過去を振り返ってしまい、心がどんよりとする——人間ですから、そういうこともあるでしょう。しかし過去の失敗をいくら後悔しても、<sup>①</sup>それをなかったことにすることはできません。( i )

私は非常に<sup>②</sup>軽率で考えが足りないタイプの人間ですから、過去に失敗は山のようにあります。大失敗して落ち込んだことも数えきれません。ただ、過ぎたことについていつまでもくよくよしたり悩んだりはしません。それを言うと、<sup>③</sup>たいていの人はびつくりします。

でも私から見れば、過去の失敗にいつまでも後悔したり、くよくよする人が意外に多い方が驚きです。もちろん私も失敗の直後は後悔します。それは頭を打った時に「痛いっ！」と叫んだり、思わずそこに手をやったりするようなものです。そんなことをしても痛みは去りませんが、<sup>④</sup>にそうしてしまふのはどうしようもありません。でも私の場合は、後悔はしばらくすると、どこかへ消えます。( ii )

私だって、後悔を続けたり悩んだりしていれば、失敗がなくなるというものならいくらでもやります。ところが、<sup>④</sup>どれほど後悔してもくよくよしても、失敗はなかったものにはならないし、その失敗で悪くなった事態はまったく改善されないのです。<sup>④</sup>となれば、後悔したり、くよくよしたりするだけ無駄ということになります。( iii )

<sup>⑤</sup>失敗をして事態が悪くなった時にやらねばならないことは、その状況をいかに良くするかということです。過ぎたことを悔やんでいる暇はないのです。失敗のレベルにもよりますが、状況によつては一刻を争うこともあります。まずは現況を確認し、どう行動すれば事態を收拾できるかの判断が重要です。そしてその方法が決まれば、それに向かってベストを尽くすことです。後悔することが悪いとまでは

言いませんが、後悔することにこだわって事態の改善に向かうことを忘れるのは絶対に悪いと断言します。(iv)

おかしな喩えですが、乗組員のミスがいくつも重なって敵潜水艦の魚雷を受けてしまった巡洋艦があったとしましょう。艦には穴が開き、浸水が始まっています。そんな時、艦長以下乗組員たちが、雷撃を受けたことを悔やんで頭を抱えていたとしたらどうでしょう。あるいは「誰のミスでこうなった？」と責任追及の会議が開かれたとしたらどうでしょう。いずれも艦は沈没を免れないでしょう。まずやらねばならないことは、浸水を食い止めて沈没の危機を回避すること、そして敵潜水艦の次なる攻撃に備えることです。さらに万が一、沈没した時には、乗組員がいかにして脱出するかを考えることです。後悔や反省、それに失敗の責任追及は、艦が無事に港に帰還してからのことです。

人生もこれと同じです。ですが私のまわりにも、魚雷を受けて浸水が始まっているのにもかかわらず、後悔ばかりして、《B》茫然としていてだけの人が少なくありません。

また後悔が過ぎると考え方が前向きにならず、現時点の判断にもよくない影響を及ぼします。緊急事態の収拾に関しては、今の状況だけを見て判断することが大切です。

(百田尚樹著『鋼のメンタル』より)

※1 魚雷 — 海上で戦う時に使用する兵器。

※2 巡洋艦 — 水上の戦闘に用いる軍艦の一種。

問一 《A》《B》に補うべき語として最も適当なものを次のア～オの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

ア あるいは      イ ところが      ウ もちろん      エ しかし      オ つまり

問二 次の一文は (i) ～ (iv) のどこに入れるのが適当だと考えられますか。最も適当な箇所を (i) ～ (iv) の中から選び、その記号を書きなさい。

なぜなら後悔しても事態はよくならないからです。

問三 — ①「それ」とは何ですか。文章中から五字で抜き出して書きなさい。

問四

——②「軽率」については対義語を、——⑥「帰還」については熟語の成り立ちが同じものを次のア～エの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| ② 軽率 | ア 嚴重 | イ 緊張 | ウ 簡潔 | エ 慎重 |
| ⑥ 帰還 | ア 飛翔 | イ 勝負 | ウ 気管 | エ 帰路 |

問五

□にあてはまる最も適当な語句を次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| ア 強制的 | イ 意図的 | ウ 反射的 | エ 一方的 |
|-------|-------|-------|-------|

問六

——③「たいいていの人はびっくりします」とありますが、その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア たいいていの人はこれまでに数え切れないほどの失敗をしてきたが、私は運良く失敗の数も少なく、人生で有害とも言える後悔をあまりしてきていないから。

イ たいいていの人は失敗すると反省ばかりしてなかなか前を向くことができないが、私の場合は失敗のレベルによって反省の仕方を変え、早く立ち直ることができるから。

ウ たいいていの人は失敗をすぐに忘れてそれをなかったことにできてしまうが、私の場合はいつまでもくよくよ悩んで後悔ばかりしてしまうから。

エ たいいていの人は失敗してしまったことについてあれこれ考え込むが、私は落ち込んだとしてもあまり悩まず、後悔は無駄であり人生で有害とも考えているから。

問七

——④「となれば、後悔したり、くよくよしたりするだけ無駄ということになります。」の文において、「たり」のもつはたらきとして最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| ア 添加 | イ 並列 | ウ 強調 | エ 比較 |
|------|------|------|------|

問八

——⑤「失敗をして事態が悪くなった時にやらねばならないことは、その状況をいかに良くするかということです。」とありますが、文章中にある「喩え」の場合ではどのようなことをやって状況を良くすると言っていますか。文章中から四十字以内で抜き出して、最初の五字を書きなさい。

問九 次のア～エについて、本文の内容に合致するものには○を、そうでないものには×をそれぞれ書きなさい。

ア 人は誰も失敗し必ず後悔もするため、納得いくまで後悔したあとで次に進んだほうが同じ失敗を繰り返さないですむだろうし、堅実な人生を送ることができる。

イ 後悔しすぎる人は失敗についてしっかり考え事態の改善に努めているから、失敗しても何も考えない人よりも人間として成長していると言つてよい。

ウ 人は失敗したらすぐに状況を確認し、これ以上悪影響が出ないためにどうすればよいか判断し行動していくことが大事であり、後悔することにあまりこだわらないほうがよい。

エ 性格は人それぞれであるから、失敗したことをいつまでもよくよく悩むことで改善できるタイプの人と、そうでない人が世の中にいるのは当然のことである。

【二】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「ピアノを調整する調律師ちやうりつしになったばかりの「僕」は、由仁ゆにと和音かずねというふたごの高校生と知り合いになる。二人ともピアニストを目指していたが、由仁は急にピアノが弾けなくなってしまった。

「私、やっぱりピアノをあきらめたくないです」

あきらめる。あきらめない。―それは、どちらかを選べるものなのか。選ぶのではなく、選ばれてしまうものなのではないか。<sup>①</sup>

② 由仁の視線が刺さる。あきらめたくないと言うこの子に、何もしてあげることができない。受けとめきれないと思いつつながら、視線を外すこともできない。

「調律師になりたいです」

意表を突かれて、言葉が出なかった。

③ 《 》、由仁の真ケンな表情を見て、思った。ピアノをあきらめることなんて、ないんじゃないか。森の入口はどこにでもある。<sup>④</sup>  
④ 森の歩き方も、たぶんいくつもある。

調律師になる。間違いなくそれもピアノの森のひとつの歩き方だろう。ピアニストと調律師は、きっと同じ森を歩いている。森の中の、別々の道を。

「和音のピアノを調律したいんです」

「それは――」

※<sup>1</sup> 柳さんと僕の声が重なった。たぶん違うことを言おうとしているのだと感じた。

「おもしろいね」

果たして、柳さんは言った。

「いい専門学校があるから。そこで勉強するといい」

「私が望んだんです」

和音が言った。

「もしも、由仁が私の弾くピアノを調律してくれたらすごく心強いと思って」

「ううん」

由仁が遮る。

「私が望んだんです。和音の弾くピアノを調律したいんです」

「でも」

割って入ると、四つの黒い瞳が一斉にこちらを見つめた。

「でも、何だよ」

柳さんも僕を見る。僕は<sup>a</sup>ダマ<sup>a</sup>って首を横に振る。

I 僕の調律は和音が羽ばたいていくの間に合わないのかもしれないのだった。

「ピアノを弾く人ならみんなわかっていると思います。ひとりなんです。弾きははじめたら、結局はひとりなんです」

和音が静かに訴える。

⑤ 「だからこそ、由仁が完璧に調律してくれたピアノを弾きたい。それが今の私の夢になりました」

夢、か。柳さんと僕は顔を見合わせた。たぶん、また、違うことを考えている。

「いいねえ」

柳さんが言う。僕は、歯がゆい。そんなささやかな夢でいいのか。違うんじゃないのか。もっと大きな夢を見ていいんじゃないのか。和音は、和音だ。ピアノを食べて生きていく人なのだ。

「ピアノを弾き始めたら II です」

由仁が和音の言葉を繰り返す。声に強い意志が込められていた。

「だから、そのひとりを全力で私たちが支えるんです」

ああ、と声が出そうだった。私たち<sup>⑦</sup>。それは、僕たちが言わなければいけなかった台詞<sup>せりふ</sup>だった。僕が、僕たちが、和音のピアノを支える。

「和音が<sup>⑧</sup>そうであるように、私もピアノで生きていくんです」

遠い山の中の木に、またぼうっと明かりが灯ったのが見えた気がした。由仁はすでに調律師になることを固く決意しているのだと思っ  
た。

「じゃあ、今日はこれで失礼します、お邪魔しました」

ふたり揃ってお辞儀をして、顔を上げたときには、もうすっかり明るい笑顔だった。

入口まで見送って、手を振る。二階の事務所へ戻っても、柳さんはまだ興奮していた。

「<sup>⑨</sup>なんだか俺、めっちゃくちゃにがんばりたい気持ちなんだよ。あああ、いつ以来だろう、こんな気持ち。ボクシングの中継を観たとき

みたいだ。そのあと、無性に走り出したくなるような、あの血沸き肉躍る感じだ」

<sup>※2</sup>矢継ぎ早<sup>はや</sup>に喋って、それからため息をついて首を振った。

「歯がゆいなあ。がむしゃらにがんばりたいのに、何をがんばればいいのかわからない」

「僕もです」

何をがんばればふたごを応援できるのか。どうがんばればいい調律ができるのか、わかっているならすぐにも全力でその努力をする  
だろう。どんなに大変でも、苦労しても、何をすればいいのかわかっているなら。

(宮下奈都著『羊と鋼の森』より)

※1 柳さん | 調律師で「僕」の先輩。

※2 矢継ぎ早に | すぐに。

問一 ~~~ a・bのカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなにそれぞれ直して書きなさい。

問二 《 》に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア またも      イ でも      ウ さらに      エ まさに

問三 Iには次の（i）～（iv）の四文が入ります。適当な順番に入れかえて、その記号を書きなさい。

（i）でも、ほんとうは、僕だ。

（ii）そう思うのに、それを言うことができない。

（iii）僕には力がない。

（iv）僕が調律したい。

問四 IIに補うべき最も適当な語句を文章中から三字で抜き出して書きなさい。

問五 — ①「選ぶのではなく、選ばれてしまうものなのではないか。」とありますが、なぜ僕はそう考えているのですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア ピアノを弾くということは本人の努力だけではどうにもならない才能に左右される面もあり、自分の意志でなくてもあきらめなければならぬときもあるから。

イ ピアノを弾くためには気持ちの強さも大きく左右するものであり、あきらめることを一瞬でも考えてしまった時点で心が負けており、あきらめる以外には選択肢がないから。

ウ ピアノは他人に聞いてもらって初めて意味があるもので、他人が気に入るかどうかは自分では選べないものであり、受け身になってしまふから。

エ ピアノは生まれ持った才能が全てであり、生まれた時点でその才能を持つ人間に選ばれていないとピアノを続けることはできないから。

問六 — ②「由仁の視線が刺さる。」で使われている表現技法は何ですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 直喩      イ 隠喩      ウ 擬人法      エ 倒置法

問七 — ③「ケン」を漢字に直したとき、同じ漢字が使われているものを次の文中のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。  
ケン道のケン大会に出場するケン利を得たが、肩を怪我しているため、出場せずケン学することにした。



問八

——④「森の歩き方も、たぶんいくつもある。」とありますが、この文章において「森の歩き方」とは何をたとえたものですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア ピアノが上手くなる方法。

イ ピアノに関わって生活をする方法。

ウ 腕の良い調律師になる方法。

エ ピアノのことを忘れて幸せに生きる方法。

問九

——⑤「だからこそ、由仁が完璧に調律してくれたピアノを弾きたい。」とありますが、この言葉には和音のどのような思いが込められていますか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア ピアノを弾くことは孤独な行為であり、その孤独さをわかっている由仁の力を借りつつ、由仁の調律したピアノを弾くことで由仁が調律師として生きていけることを証明したいという思い。

イ ピアノを弾くことができなくなるという辛い経験をした由仁の気持ちをなくさめるために、由仁の調律したピアノを弾いて自分が世界的に有名なピアニストになってやろうという思い。

ウ ピアノを弾くことは孤独な行為であり、自らがピアノを弾いていたためその孤独さをよくわかっている由仁が調律をしてくれれば、自分が演奏中に大きな失敗をしても助けてもらえるという思い。

エ ピアノを弾くことの孤独さをよくわかっている由仁に自らのピアノを調律してもらうことによって、自分の孤独で辛い気持ちも少しでもやわらげてもらいたいという思い。

問十

——⑥「ピアノを食べて生きていく人なのだ。」とありますが、「ピアノで」ではなく「ピアノを」と表現した言葉には僕のような思いが込められていますか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 和音はピアノを生活の手段としてだけでなく、世に出るための道具として用い、自分の商品としての価値を高めていく人間であるという思い。

イ 和音はピアノによる経験を元にして成長し、由仁の悔しい思いも引き受けて生きていく人間であるという思い。

ウ 和音はピアノの才能があり、他のピアニストを踏み台にして自分の価値を上げていく人間であるという思い。

エ 和音はピアノを生活の手段にするだけでなく、ピアノによる経験を元にして成長し、自らの大きな夢を叶えていく人間であるという思い。

問十一——⑦「それは、僕たちが言わなければいけなかった台詞だった。」とありますが、なぜ僕はそう思ったのですか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 調律師は孤独なピアニストの力になる必要があるが、そのことを先に調律師になった僕ではなく由仁に言わせてしまったから。

イ 僕は思いを寄せている由仁を励ますことができず、その役割を肉親である和音に与えてしまったから。

ウ 調律師の役割はすでにこの道に入っている僕や柳さんのほうがよくわかっており、その役割をいつか言おうと準備していたから。

エ 僕も柳さんも和音のことを大切に思っており、その気持ちを肉親である由仁より先に言いたい気持ちがあったから。

問十二——⑧「そう」が指すものを文章中から十字以内で抜き出して書きなさい。

問十三——⑨「なんだか俺、めちゃくちゃにがんばりたい気持ちなんだよ。」とありますが、なぜ柳さんはそう思ったのですか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 調律師が他人に憧れを抱かれるような職業だと気づいたうえに、由仁が憧れていると知ったため、自分が調律師としてお手本になるようにもつと頑張ろうと思ったから。

イ ピアニストになることをあきらめた由仁に調律師という次の目標が決まったので、調律師になるための学校をすぐに調べようと思ったから。

ウ 絶望していると思っていた由仁から将来に対する前向きな気持ちが聞け、しかも将来の夢が自分の職業である調律師だったため、自分も調律師としてもつと頑張ろうと思ったから。

エ 絶望している由仁に新しい目標が見つかり、和音と由仁の仲もこれまでどおり仲の良い姉妹でいられそうだとわかり、嬉しくなったから。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

これも今は昔、※1 ゐなかの※2 児ちごの、比叡の山へのほりたりけるが、桜のめでたく咲きたりけるに、風のはげしく吹ふきけるを見て、此このちご児、

① さめざめと泣きけるを見て、僧の、やわらよりて、「など、かうは泣かせたまふぞ。この花の散るを惜しうおぼえさせたまふか。桜は

(静かに寄って)

はかなき物にて、② かく程なくうつろひさぶらふなり。されども、③ さのみぞさぶらふ。」となくさめければ、「の散らんは、

(このようにすく)

(それだけのことです)

あながちにいかげせん、苦しからず。我父の作りたる麦の花散りて、実のいらざらん、思おもふが③ わびしき。」といひて、さくりあげて、「よ

(つらい)

(しゃつくりをあげて)

よ」と泣きければ、④ うたてしやな。

(情けないことであるよ)

(『宇治拾遺物語』を一部改題)

※1 児 — 学問や行儀見習いのために寺院に預けられていた貴族や武士などの子弟。

※2 比叡の山 — 京都府と滋賀県の県境の比叡山ひえいざんにある延暦寺えんりやくじを指す。この寺で児は僧から文化や芸術などのさまざまな学問の教育を受けている。

問一 「ゐなか」を現代かなづかいで書きなさい。

問二 に補うべき語として最も適当なものを文章中から漢字一字で抜き出して書きなさい。

問三 — ① 「さめざめと泣きける」とありますが、児の様子として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 寒さに耐えきれず涙を流した様子。

イ 恥ずかしさのため気づかれないように涙を流した様子。

ウ 悲しみのあまりしきりに涙を流した様子。

エ 寂しさに耐えきれず大声をあげて涙を流した様子。

問四 — ② 「かく程なくうつろひさぶらふなり」とありますが、何がどのようになることですか。十字以内で書きなさい。

問五

——③「わびしき」とありますが、児が何を「わびしき」と言っているのですか。文章中から二十一字で抜き出して、最初と最後の五字を書きなさい。

問六

——④「うたてしやな」とありますが、僧が「うたてしやな」と思ったのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 桜が散ることに対する寂しさを感じていると思っていた児が、実際には実家の麦のことを心配していたから。

イ 麦の栽培をしている実家の父のことを心配するべきなのに、桜の散る美しさに感動していたから。

ウ 修行の身である児は学問に専念することだけを考えなければならぬところを、実家を思い出して帰りたくなっていたから。

エ 泣いている児を泣き止ませようと試みたがうまくなくさめることができず、自分の力のなさを恥ずかしく思ったから。